

(第1-1号様式)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 3年 6月 7日

奈良県知事 殿

提出者

住 所 大阪府大阪市中央区神崎町4番12号

氏 名 味覚糖株式会社  
代表取締役 山田泰正

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6767-6000

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項及び奈良県産業廃棄物処理計画作成指導要綱第5の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	味覚糖株式会社 奈良工場
事業場の所在地	奈良県大和郡山市今国府町137-5
計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	製造品等出荷額等： 28,615百万円
③ 従業員数	社員104人、パート209人、派遣116人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	有機汚泥→中間処理業者に委託し焼却し、焼却灰として再資源化。 無機汚泥→中間処理業者に委託し再生販売。 混合物→最終処分業者に委託し、埋立処分。 動植物性残渣→再生利用業者に委託し、たい肥として再資源化。 →中間処理業者に委託し焼却し、焼却灰として再資源化。

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
奈良工場長(廃棄物処分統括責任者)			
↓			
工場サービスセクションリーダー(廃棄物管理セクション長)			
↓			
工場サービスセクションインフラライン長(廃棄物管理ライン長)			
↓			
現場管理責任者(産業廃棄物管理責任者、特別管理産業廃棄物管理責任者)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度(令和2年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 動植物性残渣
	排出量	39 t	1184 t
	産業廃棄物の種類	3. 混合物	—
	排出量	400 t	t
	(これまでに実施した取組)		
各部署、工程で発生量を抑えるよう、個別に管理している。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 動植物性残渣
	排出量	37.05 t	1124.8 t
	産業廃棄物の種類	3. 混合物	—
	排出量	380 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
工程の改善による産業廃棄物の減少。			
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、混合物は、有償物を分別し、それぞれ個別に管理している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣の処分方法を再検討。		

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

	【前年度（令和 2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 動植物性残渣
①現状	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 混合物	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	(これまでに実施した取組)		
	特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 動植物性残渣
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 混合物	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
(今後実施する予定の取組)			
実施する予定はない			

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

	【前年度（令和 2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
①現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
	特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
実施する予定はない			

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和 2年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和 2年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 動植物性残渣
	全処理委託量	39 t	1184 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	131.95 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	39 t	1052 t
	産業廃棄物の種類	3. 混合物	—
	全処理委託量	400 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	400 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	— t
	(これまでに実施した取組) 可能な限り再生利用者への処理委託を行い、最終処分量の提言を図る。		

		【目標】			
②計画	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥		2. 動植物性残渣	
	全処理委託量	37.05	t	1125 t	
	優良認定処理業者への処理委託量		t	t	
	再生利用業者への処理委託量		t	125 t	
	認定熱回収業者への処理委託量		t	t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	37.05	t	999 t	
	産業廃棄物の種類	3. 混合物		—	
	全処理委託量	380	t	t	
	優良認定処理業者への処理委託量	380	t	t	
	再生利用業者への処理委託量		t	t	
	認定熱回収業者への処理委託量		t	t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t	t	
	(今後実施する予定の取組)				
	優良認定処理業者を選定する。 委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。				
	※事務処理欄				